児童の栽培体験学習

周南市立勝間小学校

１　活動の概要

子どもたちにとって、栽培体験学習は多くの知識と知恵を獲得する機会や場となる。また、体験を通して豊かな勝間地区の自然や多くの地域住民と関わり、ともに収穫の喜びを味わう。情報化社会の中でゲーム等バーチャル的な関わりを多く体験している子どもたちにとって、実際に土に触れ、汗を流し、四季を感じる体験は、豊かな心の育成につながる。

今年度も、熊毛婦人会を母体とする遊休農地支援隊が行っている学校支援ボランティアの支援を受け、年間を通した栽培体験学習を実践している。田植え、芋の苗植え、稲刈り、はぜかけ、芋掘り、餅つきの時期に児童が栽培体験学習を行っている。子どもたちは、関わってくださった多くの地域の方々に対する感謝の気持ちを抱き、登下校時のあいさつにつながっている。

２　所属・人数

〇学校　１年生児童（６７名）、５年生児童（５８名）

〇地域　熊毛婦人会、遊休農地再生隊、学校支援ボランティア（約40名）

３　活動内容

（１）田植え：５年生（６月）

ボランティアの方々の指導を受けながら、田植えを体験した。社会科で米作りの学習に取り組んでいるものの、ほとんどの児童が泥田に入った経験がなく、戸惑いが見られた。泥の感触、まっすぐに苗を植えていく難しさと大切さ等、教室では学ぶことができない貴重な体験の場となった。

圃場の準備や苗の育成には地域の方々の多大な労力が割かれており、児童にそのことを伝えることで、地域の方々が子どもに向ける思いを実感させることができた。

（２）サツマイモの苗植え：１年生（６月）

１年生の児童が十分体験できるよう、かなり広い面積の畑を用意していただき、一人一人が十分に苗を植える体験ができた。幼稚園や保育園でも同様の体験をしている場合が多いが、地域に出かけ、「人との関わり」「自然との関わり」「自分との関わり」の生活科の学習を深めることができた。ボランティアの方々も、入学したばかりの１年生と関わることを楽しみにしておられた。土作りやマルチの施工等、丁寧に準備をしていただいており、児童のために注いでくださる労力に頭が下がる思いである。

（３）稲刈り、はぜかけ：５年生（１０月）

５月に植えたもち米の苗が順調に育ち、刈り取りの時期を迎えた。機械を使って稲刈りや脱穀を短時間で効率よく行う家庭が多いが、今回も稲刈りやはぜかけを児童自身に体験させていただいた。鎌を持ったことがない子どもたちばかりである。まず、鎌の使い方や稲の束ね方の手ほどきを受けた。怪我をしないように、また友達に怪我をさせないようにボランティアの方々は子どもの側で見守り、一緒に作業していただいた。田植えの時は１株３本程度だった苗が、２０本以上に分けつしたことを見て驚いたり、米一粒を大切にしようと感じたりする児童が多かった。

（４）芋掘り：１年生（１１月）

天候に恵まれるとともに、蔓切りや事前の土起こしをしていただいたおかげで、１年生の力でも比較的簡単に掘り出すことができ、収穫の喜びを存分に感じることができた。並行して焼芋もご馳走していただき、収穫の成果を味わうこともできた。児童は、地域の方と楽しく話しながら作業を行い、今回も大人と子どもが笑顔を交わす場面が数多く見られた。

（５）餅つき：５年生（１２月）

地域の交流拠点である勝間市民センターの調理室等を活用し、収穫した米で餅をつき、丸める体験を行った。ここでも、機械でなく昔ながらの臼と杵を使った体験を全員ができたことはとても有意義だった。餅を丸める作業も初めての児童が多く、米作り同様各家庭で餅をつくことがほとんどなくなっている現状がわかった。

４　活動の成果と課題

子どもにとって貴重な体験学習となるとともに、地域の大人とのふれあいを通して、地域の人々の思いにふれ、故郷勝間地区への愛着を感じることができた。ボランティアの方々からは、勝間小の子どもたちが健やかに成長してほしいという思いを直接伝えることができ、それが自分たちの生きがいであるとの感想をいただいた。また、年間を通じて行う週２～３回の圃場作業を通して、大人同士のコミュニケーションを図ることにもつながったようである。

栽培体験学習は、コミュニティ・スクールで大切にしている「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」につながる取組のひとつであると考えている。今後も、一層活性化を図りたいと考えている。